



頑張るあなたを独りにしない

名古屋市議員

久田くにひろ

プロフィール

昭和58年12月31日生まれ。瑞穂区生まれ。
陽明小・汐路中・天白高を経て青山学院大学経済学部卒業、名古屋大学大学院経済学研究科修了。
不二家・京セラ(KDJ)で法人営業に従事。

街頭活動

1,423回

3月末日時点

立憲民主党提案！

子どもの体験に
繋がる機会を
創出したい

小学生の無料交通パス

「子どもパス」導入へ

久田くにひろが所属する名古屋民主市議団(立憲民主党会派)は、代表質問で、「子どもを産み育てるなら名古屋」を進めるため、小学生が無料で地下鉄や市バスに乗車できる「子どもパス」を提案。名古屋市は、少子化対策として子どもパスを導入する方針を示しました。夏休み中などで試行し、本格導入につなげる予定です。



子ども未来全力応援！ 令和6年度、子育てしやすい社会環境づくりを進めます。



赤ちゃんへの 絵本プレゼント

図書館の窓口で初めて貸出券を作る市内在住の0歳児を対象に絵本を配付する。



BABY YELL!の 継続実施

名古屋市内で生まれた子どもに5万円相当の商品をプレゼントする事業「BABY YELL!」を継続して実施する。



学童の支援

育成会を同一世帯で同時に複数人利用する場合に、第2子以降の保護者負担額を減免する。



キャリアタイムの 実施

子ども一人一人の自分らしい生き方を実現する力を育てるキャリア教育を推進するため、自分らしさや自分の生き方を探究する授業を実施する。



ひとり親 家庭への支援

大学受験料、模試費用の補助を行い、経済的課題を抱えるひとり親家庭等の子どもの進学に向けたチャレンジを後押しする。

久田くにひろの
本会議質問から実現しました！



婚活イベントの開催

結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくりの機運醸成を図るため、婚活イベントやライフデザインセミナーを開催する。



トワイライトでの 昼食提供

長期休業中に早朝から弁当の準備をしている保護者の家事負担を軽減するため、弁当配達サービスを試行的に実施する。その後、希望する全トワイライトで実施できるよう整備を進める。





01 育児と介護の両立(ダブルケア)の支援

ダブルケアに関する理解が、行政職員や市民に広がっておらず、たらい回しを受け、孤立を深めた。育児中に介護が発生し、相談先や支援などの情報がわからないまま、立ち止まることなく物事が流れ、社会から置き去りにされていると感じた。(当事者の声)

ケアマネジャーの理解が深まるよう、研修内容を充実するとともに、市民がダブルケアへの理解をより一層深めることができるよう、また、当事者に対して、必要な情報がしっかりと届くよう、広報・周知について強化を図っていくべきでは？

当事者がいきいき支援センターに相談に訪れた際、介護以外の、育児やその他の悩みについても相談ができるということを知り、相談しやすい環境を作ることが必要では？



久田くにひろ

ダブルケアでお困りの方の負担感や孤独感を受け止め、相談支援を行うことが大切であり、今後は、当事者の方の体験談を盛り込むなど、研修内容を充実します。また、SNSや広報などでの活用、新たなパンフレット作成などを通じて、当事者や市民に広く広報・周知します。

相談の段階においてダブルケアの状態にいち早く気づき、適切な支援へとつなげていくために有効と考えており、準備が整い次第、いきいき支援センターの窓口で明示します。



健康福祉局長

02 仕事と介護の両立に向けた企業への働きかけ

会社の理解が進んでおらず、介護離職を余儀なくされた。(当事者の声)



働きながら家族を介護する人は2020年の262万人から2030年には318万人まで増加するとされ、早期の対策が必要である。仕事と介護の両立実現に向けて、企業が取り組む意義や現状把握、取り組むべきアクションを、あらゆる場面を通じて啓発・支援するなど、企業へ積極的に働きかけていくべきでは？

介護など様々な事情を抱える人材が離職することなく長期的に働くことができる職場環境を整備することは重要である。セミナーの開催など企業に対して介護離職防止に取り組む重要性についての広報を充実していきます。

久田くにひろ



経済局長



03 公園内への「できるを伝える」看板の設置

野球・サッカー禁止という禁止看板が目立つ形で設置されているため、やわらかなボールを使用するのキャッチボールやパス回しでさえ、できないから困っている (子どもの声)



野球・サッカーなどの禁止看板が多数設置されている。安全面から一定理解できるが、禁止内容を極端に強調や意識するあまりに、やわらかいボールを少人数で遊ぶことも含めて、全てのボール遊びが禁止だと誤解を招いているのではないかと感じている。子どもたちのボール遊びをしたいとの切実な声は全国に広がっており、他都市では、看板の見直しが進められている。名古屋市も、公園内の禁止看板を子どもや子育て当事者の声を受け止めながら、できることが子どもにも伝わるようなデザインの看板へと見直ししていくべきでは？



他都市事例の調査や現地状況の把握等を行うとともに、子育て世代を含めた地域での話し合いの機会を通じて、わかりやすい看板の設置をより一層進め、子どもが元気いっぱい楽しめる公園となるよう取り組みます。

久田くにひろ

緑政土木局長



他に、障害者グループホーム法人への対応について質問。また、予算委員会では、図書館の利用率向上、市立高校へのエレベーター整備、中学校部活動の見直し、児童館への無線WIFI環境の整備、不妊検査費助成、博物館へのグリーンインフラ導入、学校制服ブレザーの公正な取引など14項目について質疑しました。



個人質問を Youtubeで 確認